



こいそ としお
小磯 利雄 議員

広野町社会福祉協議会

「寝たふり・寝たきり社協」となっているのか

町長／福祉のまちづくりの実現に向け取り組まざる

小磯：この度の事案について残念でなりません。今回の件より以下お尋ねします。

町長：令和4年度の加入者数は、一般会員1051人、加入率は46・9%となっています。

小磯：全国で「寝たふり・寝たきり社協」と揶揄され諸々の障壁が発生、その原因は理事会の体制が形骸化して

いることや、定住業務に安住していることが指摘されています。本町社会福祉協議会ではいかがですか。

町長：毎月開催する保健福祉定例会において情報共有及び個別ケースの検討を行い、個別課題や地域課題の解決に取り組んでいます。更に、社会福祉法人光美会、友愛会等と定期的に情報共有会議を行い、福祉のまちづくりの実現に向けて取り組んでいます。



社会福祉協議会

りません。

小磯：年間2億円前後の事業費のうち、借入金や補助金に依存されている金額・割合はいくらですか。

併せて自主財源の割合はいくらですか。

町長：令和3年度決算における借入金はありません。

補助金につきましては、県補助金、154万7千円、町補助金、697万8千円、合計852万5千円で、収入総額の3・6%です。自主財源の割合につ

きましては、42・7%となっています。

小磯：臨時議会で会長である町長が10%減給と責任を認められました。会長職は辞退すべきではありませんかお尋ねします。

町長：理事・会長職を全うすることが、今般の不祥事から社会福祉協議会の信頼回復を図り、更なる住民福祉の向上を図ることと捉えています。

本社機能移転等支援

町の税収・雇用増に繋げるべき

町長／町独自の支援策を検討する

小磯：成長が期待できる産業分野を目標に、本社機能の移転等事業者に対して、支援を行い、町の税収・雇用増に繋げるべきです。そこで以下お尋ねします。

本町企業数と本社機能有している企業数をお知らせ下さい。

町長：企業数は222社、本社機能を有している企業数は118社です。

小磯：本町において、経済波及効果に繋がる政策はあるのかお尋ねします。

町長：国勢調査では、本町における夜間人口は2000年で5918人、2020年が5412人となっています。昼間人口は2000年で約5900人、2020年で約6600人となっています。

町長：駅東側産業団地、東町産業団地を造成に伴い、本社機能移転等を含めた企業誘致を更に推進するため、県の支援策に加え、町独自の支援策について検討し取り組みます。

小磯：本町における昼間・夜間労働人口の推移をお知らせ下さい。

町長：国勢調査では、本町における夜間人口は2000年で5918人、2020年が5412人となっています。昼間人口は2000年で約5900人、2020年で約6600人となっています。

子育て支援

町独自の支援策は

町長／0～2歳児保育料の無償化を捉える

門馬：町は若者世代の経済基盤の安定化及び安心して子育てできる環境づくりを通じて、移住者の獲得を目指すこととしていますが、町の子育て支援で目を引くのは、単独事業として、出産祝金、入学祝金、チャイルドシート等購入奨励補助金、給食無料化事業があり、補助事業として、こども園利用無償化、児童手当、出産子育て応援交付金、乳幼児等医療費助成事業、障がい児通所等給付費等があります。

町長：若者世代の経済的負担を軽減するため、町独自の支援策として、令和6年度から0歳児から2歳児の広野こども園保育料の無償化の実現を捉え、0歳児から中学校卒業までの教育支援体制の確立、高

校生活の支援を図っていきます。今年度、第3期広野町子ども・子育て支援計画策定に向けアンケート調査を実施します。

保護者のニーズを把握し、得られた調査結果を第3期計画に反映させ、町ぐるみで子育てを応援する環境づくり、若者世代が安心して出産・子育てができるまちづくりの実現に向け取り組みます。

福祉のまちづくり

町の取組は

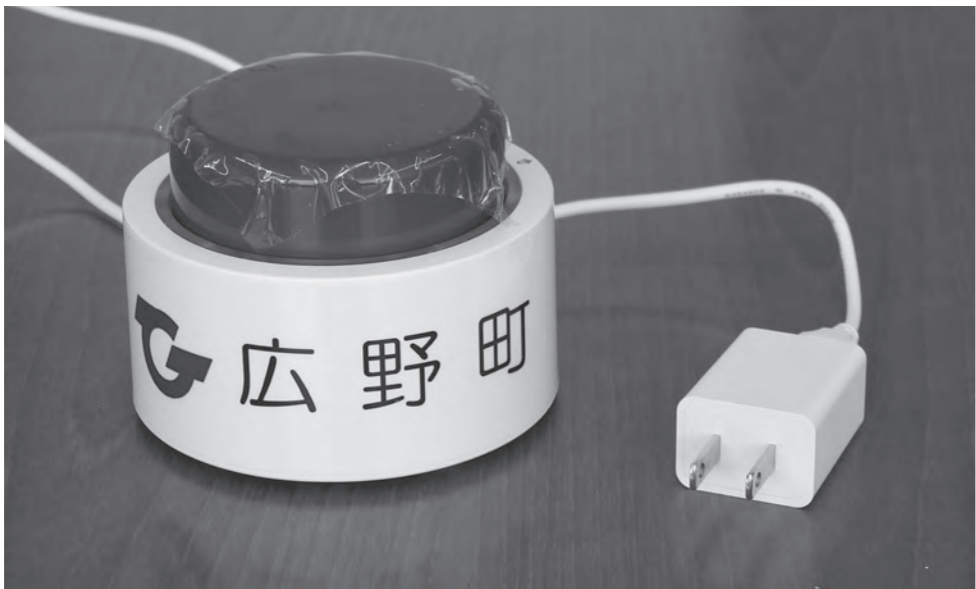
町長／マゴコロボタンの運用を開始

門馬：町は平成31年1月に住民一人一人が幸せに暮らせる町を大きな目標に掲げ、様々な分野において施策を展開し、「住んで良かった」「住んでみたい」と思える「人にやさしいまち」を標榜し、「福祉のまちづくり」を宣言し取り組んでいます。

そこで、高齢者や障がい者等にやさしいまちづくりを目指すため、地域の課題に迅速かつ適切に対応していく上で、町の取組について

町長：地域包括ケアシステム構築等に関する協定を締結する社会福祉法人光美会、友愛会、広野町社会福祉協議会等と定期的に情報共有会議を行い、持続可能な町政進展に向けて力強く前進し取り組んでいます。

本町において、一人で生活する高齢者が安心して生活できる環境を整えることを目的に日常生活における安否確認や福祉サービスの提供を行うため、6月12日より、75歳以上の単独高齢者世帯のうち利用を希望される方に対し、マゴコロボタンを設置し、運用を開始しています。



マゴコロボタン



もんま
門馬 まりえ 議員

しかし、これらの支援策は県内でも実施さ